集

デマのいろいろ

子供たちにせがまれる「だんらん」をやめての公休出勤を月に二回もする。自分の体が弱ってゆくナと思いながらも二時間・三時間の残業をする。

こうして働いた賃金を「分割」どころか「源払い」にし、期末手当もゼロのままという全く卑きょうな兵糧攻めを、本家すじの三井銀行が金を貸さない、という勝手な理由をくつつけて会社はしゃにむに強行しているが、その上、六人に一人、最高一万円の「クビ切り・賃下げ」を第二次案にしている。

しかし、だれもが知っているこの事実を、働らく者とその家族が肌で受けとめているこの憎しみをデマのいろいろが、する賢くたぶらかそうとしている。

たしかに、「デマのいろいろ」という顔でみんなが話合うことが当面必要だが、二、三を私も述べてみたい。

紙のばくだん

「アレテレ、バカにハイカラな戦術だナ。金がない、金はないと会社はいいながら」

と私たちはぼやいたものだが、もう二回（七月二十日と八月二十四日）にもわたつて、ヘリコプターが、紙のばくだんをふらせた。

その内容は、第三者の立場でありながら「三井鉱山は闘死の一歩手前だ」とふつた上で「組合指導者にだまされるナ」と親切だ。

けれども三池労組は、月に四回も五回も決議機関を開いているので、指導部まかせの事例は問題なく少い（三鉱連六山平均も一・五回くらい）し、繰込み・職場の情宣も十分とはいわれないまでもかなりやつているので、「組合員をだます」などの指導部独裁は絶対許されてはいない。

新聞のデマ

一般新聞に至つては、「自主性を強調しながらアメリカ一辺倒」に皿みちをあげる岸政権と全く同様、資本家擁護のために「新聞の中立性」を放棄してはばからない仕末である。

例は無数だが、「低能率・高賃金―全国一をほこる設備だが」という朝日新聞記事（九月十六日）には全くたまげた。

なくいう私が「能率を上げるのは社会主義社会になつたとき」とバカボラを吹いたことになつているし、「坑内夫金般でほかの大手より平均四千円ほどいい」ということで会社資料の二千円を四千円に勝手な水増しをやつている。

また、

朝日は九月十五日から「黒い失業地帯」

毎日は九月十六日から「この山に灯を」

と、どでいねいな連載をはじめたが、「石炭は救われない」とか「いも、うどんで二食」ということで石炭労働者の抵抗を冷却させている。

私たちはヒドいデマと考える。

組織介入を許すな

十一日から十二日にかけての「製作所分離問題」は、「みいけ」前号で報道しているのだが、これがまた「デマ」の宝庫にされてしまつた。

私たちは、製作支部を含めて指導部・決議機関全員の徹宵努力で「分裂」を回避した。

(1)企業合理化反対闘争のため総力を結集してたたかう。

(2)「分離」については企闘終了後、機械屋は機械屋どうしという希望を尊重し、資料を執行部で作成し、製作支部組合員の大衆討議に附し、その結論を中央委員会に提案する。

という基本と戦術配慮（当面・製作支部は具体的提案が別途であるので）がその結論だつた。

私たちは、製作支部個有の「組織の独立」という考えと、三井鉱山の「クビ切り合理化」とをごつちゃにしないことを討議し合つたなぜなら、闘争中の「分裂」はどんなことがあつても組合員のプラスにはならんからである。

しかるに、組合員その他からの問合せによると、いわゆる「中央委員会での三条件」には「ウラ協定がある」といわれているようだが、それは無根である。

このような「デマ」がおどり狂つているが、まるで「製作所分離」が「闘争中」にも敢行される、という具合だし、それを待ち望んでいるようだ。

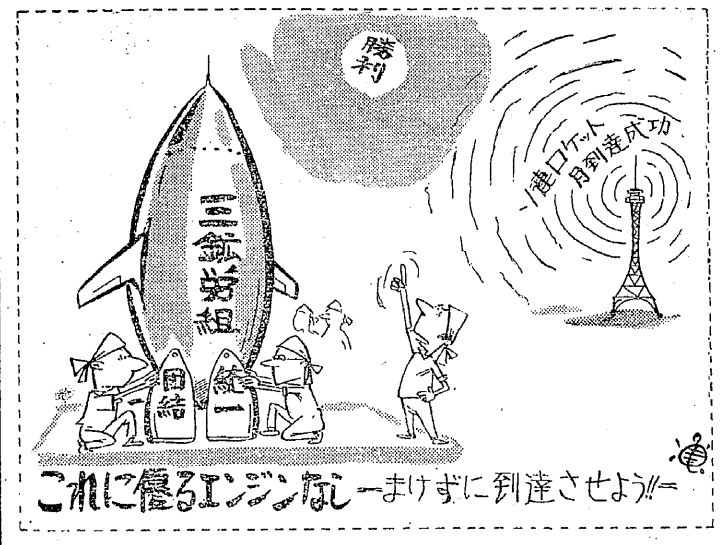
さて、デマのいろいろ、それはまことに多彩である。

ぐるりの「仲間」に「デマ病患者」はいないだろうか。

（九・一九記）

デマを分裂させよ

本部　灰原茂雄



企闘の勝利が賃上げへの道
賃金討論集会を終る

実感が出ない賃闘

渡辺組織部長はまず

毎年おこなわれている炭労の賃金討論集会が、三池でも去る十七・十八日の両日、坑内、坑外にわかれて、炭労から渡辺組織部長が出席して、本部大会議案でひらかれた。各地での討論会で賃金、期末手当についての意見を参考に、要求案を作製し、炭労大会にかけられるわけだが、三池での討論はいまのるかそるかの大闘争をやつている最中だし、賃金討論についての実感が湧かない、闘争後にすべきだという意見もあり、主に合理化を背景とする討論がなされたが、この企業整備を闘いぬくことこそ賃上げ、期末手当獲得へ通じる道だということになつた。

渡辺組織部長はまずいま炭労には大がかりな企業整備がかけられています。これを闘つていながら闘いのさなかで賃金の問題を論ずるのは、実感が湧かなく身が入らないという意見もありますが、過去十年にわたつて、労働者の基本的な生活を上げるためには、賃金闘争は最も必要であり、重大なものであるとの基本的な立場に立つて昨年まで闘いを進めてきました。賃金・労働条件を引上げることにより意識の高揚をはかることは大きな意義を果しております。そういう意味で企業整備で賃金どころではないという方もあるでしようが、企業整備反対闘争を進めながら賃金闘争も進めなければなりません。

と挨拶して、いま炭労にかけられている企業整備、エネルギー問題政策変更の闘いについてその本質を突いて説明し討論に入つた。

討論は、

(1)組合員は合理化闘争の本質をどう捉えているか。

(2)敵の攻撃はどのようにかけられているか。

(3)敵の攻撃に対決することと、賃金・期手の要求との関連をどう考えるべきか。

(4)賃金の要求額について、

(5)期手の要求額について。

(6)組合員の不満、要望について。

以上六つのテーマのもとにすすめられた。

十七日（坑内関係）に出た主な意見をひろつてみると、

失業闘争を組め

○われわれは政策変更なくして石炭産業と対決しても解決しないと思う。それと現在の企業整備を闘い抜かなければ、賃金闘争はあり得ない。

○賃金と企闘を併行的にやつていくというが、賃金が妥結すると三井だけが残り、独走する傾向になりはしないか。

○企闘では三井が取残される心配とは逆に、炭労の統一闘争ということで、独走の態勢にある三鉱連の力が、炭労の限界ということで制切られはしないか心配している。

○組織部長は石炭消費の割合いからみて、こんど石炭は重油との割合いからみても十分やつて行けるといわれたが、私の調べた所では、そうでない面もある。

○炭労は反失業者闘争に本格入れているのか。大会ではスローガンに掲げているが、いまこそこの闘いに取組むべきではないか

首切りも賃闘も大切だ

○請負給の撤廃が本年度の方針に出されていたがどのようにされているか。全然されていないように感ずる。

○毎日企業整備闘争に明け暮れているからこれから要求する賃金そのものは、まだじつくり考えの中に入つていない。

○企業整備闘争なくして賃金闘争はあり得ないのではないか。

○会社はいまロツクアウトを考えてな諸々にその準備をしているが、炭労はこれをどう考えているか。また、ロツクアウトの対策はあるのか。

○首切り闘争に勝たない限り賃上げはナンセンスだといわれるが労働組合の任務として首切りも重大だが、賃上げも重大だ。

○企業整備をはね返すことこそ、つぎの期末手当、賃上げの問題に通ずるものと思う。

以上のような主旨の討論が交されたが、最終的にいまは実感として企反闘争のことで精一杯だし、こんどの問題についても考えているこういう空気を中央に伝えて貰つて、何らかの形で賃金についての集約をこんど行うということで、この日の討論会は終つた。

企業整備反対を決議
市民を守れと荒尾市議会

荒尾市議会は去る九月十四日午前十時から、臨時市議会をひらいたが「石炭不況対策に関する決議」にひきつづき、「三井鉱山の企業整備反対に関する決議」を絶対多数で可決した。一方的に労働者に犠牲を強いる再建案で、荒尾市にこれ以上失業者を増やすことは、市財政や中小企業に及ぼす影響は甚大であるという市民の意思を代表するこの決議は、革新荒尾都市としてならではである。

失業者が出ることが予想される失業事業費の増加だけでなく、失業による税金減と残つた組合員による大巾な税収減があり、これはきわめて市財政にとつて重大である。

以上の骨子により、具体的な財政の低減額や、失業対策費増加額、減収額など細かい数字をあげ、提案の説明を行つた。

これに対して豊塚議員（自労）は失対の立場から、これ以上失業者をつくるなと賛成演説、同じく小森隆一議員（三川政治局員）が賛成演説に立つた。

会社を辨護する自民党

反対演説は自民党の福田文蔵議員が行つたが、発言は終始一貫して「会社は赤字である、不況ではないか」。との会社の弁護をするような主旨で、具体的な資料も数字もない、お粗末なものであつた。

採決の結果は絶対多数で可決され保守系十五名のうち自民党議員八名だけが反対した。（市議会勢力は、革新17（組合出身14）保守15（無所属7である）

この結果、つぎのような決議と電文が会社へおくられることとなつた。

傍聴席は超満員

この日午前十時から臨時市議会がひらかれ「固定資産の評価委員」「労働ローラー購入の件」その他陳情数件が審議されることになつていた。

しかし三井鉱山の企業整備が市民の注目があつたため、傍聴席には組合員、主婦がぎつしりつめかけていた。

開会冒頭、「石炭不況対策に関する決議」を牛島元議員（四山政治局員）が緊急動議として提案、藤本幸恒議員（港務政治局員）浦亜真光議員（四山政治局員）が賛成演説に立つた。

これに対して自民党の福田文蔵議員が反対演説を行つたが、採決の結果は保守系無所属議員もこの動議に賛成して、絶対多数で可決された。

整理は一方的だ

これにひきつづき、さらに「三井鉱山の企業整備反対に関する決議」を坂本徹雄議員（三川政治局員）から提案があつた。

坂本議員は、三井鉱山の第二次案は一方的に提示してきており この結果は荒尾市に約一千名の第二次再建案を撤回せられるよう七万市民の名を以つて要求します

昭和三十四年九月十四日

荒尾市議会

三池鉱業所長若林寿男殿

電文

本市議会は貴方の、首切りと、賃金切下げ、労働強化から市民を守るために闘う。第二次再建案を速かに撤回されたい。

荒尾市議会

三井鉱山株式会社社長

磯木　幹殿

なおこのあと十五日を目前に控えている「勤評反対」について前川高之議員（四山政治局員）より提案、小木議員が賛成演説、福田文蔵議員が反対演説を行つたが、絶対多数で可決された。

こうして、この日は市議会として注目すべき決議をつぎつぎと可決されたが、この中で政治局員の力は高く評価されている。あくまでも政治中闘は、地方議会の中で、首切り、賃下げ、失業から市民を守るために闘つている。

まず地域固めが必要だ
安保条約改定反対
第十回福岡県総評大会終る

福岡県総評第十回定期大会は、九月十五、十六の両日、福岡市教育会館で開かれた。一九五九年度の〃闘いの目標〃と〃具体的な闘い〃について真剣な討議が行われた。闘いの目標については、さきに開かれた「総評大会」の方針にしたがつて進めることを再確認し、県総評として当面の具体的な行動について態度決定した

福岡を據点に闘う

闘いの目標としては

1、安保条約改定反対、安保条約破棄

2、大巾賃上げ、最低賃金制の確立

3、合理化反対、時間短縮

4、民主教育の確立、勤評反対

5、労働基本権の確立

以上五つの目標をたて、各単産はこの目標を中心に単産独自の要求を加え闘うこと、またこの闘いは安保態勢打破の闘いに通ずることを認識し果敢な闘いを行うことが決定された。

具体的な行動について

1、九月中旬から十月中旬を態勢整備期間とする。

イ、地域居住民の組織化。

ロ、総評幹事、各単産中央執行委員オルグで福岡に合理化反対共闘委員会を設置する。

ハ、官公労、地公労関係は予算編成、賃上げの要求を中央、地方一斉におこし大衆動員等も行い臨時国会（十月下旬）に対する実力行使態勢を強化する。

ニ、十月県会を中心に勤評反対のための実力行動に入り、県教委の総退陣を要求する。

ホ、官公労の賃上げの闘いと合せて合理化反対、失業反対、社会保障拡大の要求を中心として政策変更、予算編成の行動を起す

2、十月下旬から十二月まで闘争体制を強化し、秋の闘いの集中的な行動を最高に発揮させる期間とする。

イ、安保改訂の調印の時期は年内であると判断して、諸闘争の高まりをつくり、安保改定を阻止し、岸内閣を退陣させる一大実力行使を行う。

ロ、十月下旬からは、九月より積み重ねて来た諸種の闘争を、三井の闘いを基底として各単産の闘いを積み重ね強力に闘いを進めて行く。

大要以上のような行動が組まれて行くが、特に今秋の闘いは九州、北海道に闘いの拠点をおき、共闘会議の強力な指導により、拠点地区を中心に行くこととした。

黒い羽根運動を進める

その他とくに論議されたことは

1、県下各単産では年とともに活動が活発になつているし、闘争の激化とともに指導態勢の充実をはかるため、県評の機構改革を行つた。

2、土量知事リコール闘争時の決算を確認した。

3、予算編成について、青年婦人連絡協議会の諸費増加、中小支援強化、不当弾圧対策費の増加等のため、一人当り一円（炭労の場合八〇銭）会費増加を決定

4、黒い羽根運動（炭鉱失業者救援）を全国的に起すため、福岡県下の労働者は先頭に立つて行動を起すことを決定。